

クラスター事業戦略「持続可能な畜産振興～ワンヘルス推進に向けて～」説明資料

1. 本クラスターの目的

ワンヘルスの理念に基づき、家畜衛生の強化と畜産物の品質管理の向上により、安全な畜産物の安定的・持続的な生産・供給と共に、畜産農家の生計向上・レジリエンス強化に寄与する。

2. 本クラスターが直面する課題及び効果

- 食料安全保障及び貧困対策：世界の人口増加¹及び所得増加に伴う食生活の多様化により、畜産物需要は急激に増加（2050年には2005年度比で70%増）。しかし、家畜疾病が約20%の生産ロス、年間約3000億ドルの経済損失を及ぼすため、家畜疾病対策は食料安全保障のみならず、畜産農家の貧困削減・レジリエンス強化にも寄与する。
- 人間の安全保障：畜産物は多くの栄養素を含み、栄養改善・飢餓の根絶に貢献する他、耕作の困難な地域の住民の生計手段として重要であり、生産者及び消費者である住民が栄養失調・貧困等の脅威から自らを守る能力を強化する。
- 気候変動対策（緩和）：家畜疾病の対策及び家畜の遺伝的改良や飼料の開発等により、一頭あたりの生産効率を向上させ、単位生産量あたりのGHG排出量を低減させることが可能。
- 日本の畜産業保護：途上国の家畜衛生の強化により、越境性家畜感染症の日本への侵入を防ぎ、国内の畜産業を守り、甚大な経済損失の回避に繋がる²。

3. 本クラスターのシナリオ

(1) 家畜衛生の強化

第一段階として、国際基準に則った家畜疾病診断を行うための「人材育成（検査、解析、精度管理）」、「検査設備の整備」を行い、第二段階として、生産現場（畜産農家）から地方検査機関を通して中央レベルの検査機関に疾病の情報や検体がスムーズに共有され、その診断結果が現場に迅速にフィードバックされるという「サーベイランス機能」を強化する。最終段階としては、サーベイランスを通して国家としての制御戦略、緊急対応策や、より長期的な対応策を策定・実施できるようにする。

(2) 畜産物の品質管理向上

第一段階として、畜産物の生産現場・集荷・加工・流通（バリューチェーン）の各段階において、適切に衛生・安全性管理が行われるよう指導する獣医官を育成する。第二段階として、民間セクターとも連携し、検査体制の強化や検査結果（安全性・品質）が価格に反映される仕組みづくりを行い、最終段階としては、バリューチェーンの各段階において

¹ 世界人口は40億人（1970年）から97億人（2050年）に増加。

² 2010年に宮崎県で発生した口蹄疫により、牛や豚等約30万頭の殺処分が行われ、その経済損失額は2350億円に及んだ。

目指すべき品質・安全性の基準やガイドライン策定等の制度整備を行い、畜産物の安全性確保を目指す。

(3) 生産現場（コミュニティレベル）での課題解決

家畜衛生の強化と畜産物の品質管理向上に共通する、生産現場（農家）の課題解決のシナリオとして、第一段階で農家や普及員等コミュニティレベルのステークホルダーへの啓発・指導を行う地方獣医官を育成し、第二段階として実際に農家等への啓発・指導・技術普及を通して、生産者が疾病対策と品質を意識した生産を行うよう行動変容を促す。

※ このシナリオは各国・各プロジェクトで全て網羅するのではなく、各国の状況や既存の取組みを確認・分析し、ボトルネックとなる課題に対して重点的に取組む。

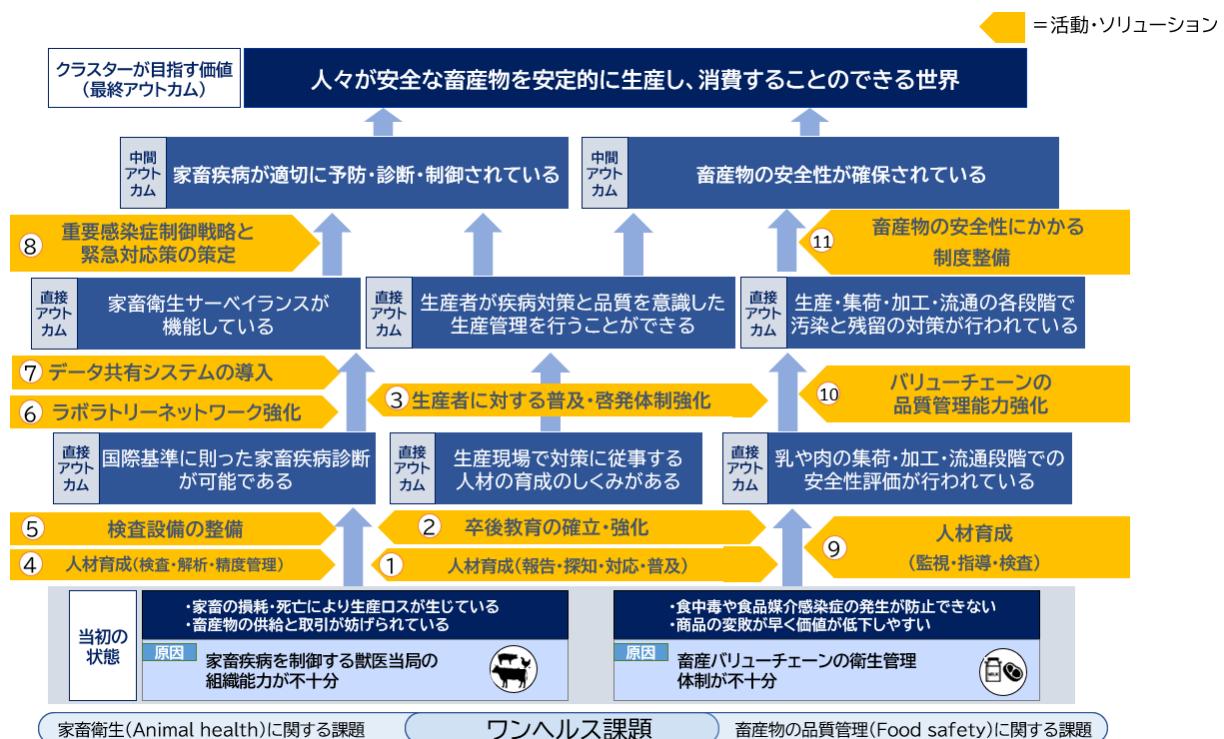


図1：クラスターのシナリオ概念図

4. 本クラスターの位置づけと意義

本クラスターはJGA「農業・農村開発」³に位置づけられるが、農業の中でも畜産は以下の特徴と意義を持つ。

- ・ 補益者：農地を持たない脆弱層や作物栽培が困難な地域の住民を多く含む
- ・ 産品：乳や肉等の畜産物は生産後の品質劣化が速い
- ・ 公衆衛生リスク：家畜やその生産物は、生産者及び消費者に人獣共通感染症⁴の病

³ 農業開発／農村開発 | 事業について - JICA：本JGAでは持続的かつ包括的な農業・農村開発を推進し、農業（水産業・畜産業を含む）及び関連産業（加工・流通業等）を振興する。これにより農家の所得向上や農村部の経済の活性化による農村部の貧困削減と食料の安定的な生産・供給を通じた食料安全保障の確保を目指している。

⁴ 人と動物の間で伝搬しうる感染症。中でも家畜や畜産物を介して感染するもの（ブルセラ症、カンピロバクター症、サルモネラ症、ニパ・ウイルス感染症等）は、野生動物を介するものよりリスクの頻度が極めて高いことから重要。

原体を伝搬し、それが国境を超えるリスクもある。

5. 本クラスターの「売り」

40年以上にわたる東南アジア、アフリカ、南米の各拠点機関への協力及び日本の大学等との人材交流を通して、専門人材の育成と関係構築を推進しており、こうした国際頭脳循環に基づく南南協力や日本の教育・研究機関との共創が強み。また日本では、畜産現場と検査機関、自治体と国の強固なネットワークによる家畜衛生サーベイランス体制が整っていること、また高度な技術開発により、世界中で流行している動物感染症の対策に成功すると共に、戦後短期間で世界トップレベルの生産性を実現したという優位性がある。その経験を途上国における家畜衛生の改善、ひいては畜産振興に活かすものである。

6. 本クラスターの目指すゴール

(1) 直接目標（2030年）

指標：①家畜衛生サーベイランス・畜産物の安全性のための検査解析コア人材600人、
②生産・集荷・加工・流通の各段階において家畜疾病の探知、報告、対応、予防または
畜産物の品質管理向上の取り組みを担うフロントライン・コア人材500人

(2) 中間目標（2030年）

指標：①国際獣疫事務局（WOAH）による獣医組織能力評価基準（PVS⁵）評価スコアの主要項目が向上する国（6か国）、②ワンヘルス課題に関連する、改善した指導・技術サービスにアクセスできる畜産農家の世帯数（10,000世帯）

(3) 最終目標

ワンヘルス課題の解決を通じて畜産が持続的に振興する。これを通し、SDGs 1（貧困をなくそう）2（飢餓をゼロに）、3（全ての人に健康と福祉を）、12（持続可能な生産消費形態）13（気候変動対策）に貢献。

7. 本クラスターの推進策

(1) 世界的枠組みに沿った協力と国際獣疫事務局（WOAH）連携

本クラスターの中心的な開発課題である家畜疾病の制御は、WOAH 及び FAO による統一方針のもとで行われる必要があることから、常にこれら二つの機関の方針に沿って、獣医当局の人材育成と畜産現場とのネットワーク強化に注力することで、多国間協力との相乗効果を狙う。また、TICAD7 で調印された JICA-WOAH 協力趣意書に基づき、WOAH アジア太平洋地域代表事務所との緊密な連携のもと、加盟国のフォーカルポイントの育成や地域会合等を共同で行う。

(2) 研修事業を核にした技術協力

本クラスターに含まれる6つの課題別研修⁶と関連する国別研修、また長期研修事業

⁵ Performance of Veterinary Service。これは獣医行政の人員配置や予算編成、法整備、検査室機能強化、民間連携等多岐にわたる項目の評価を通じて改善の道筋を示す。

⁶ 検査室の診断能力、人獣共通感染症制御、畜産物の安全性、畜産現場における獣医サービス、持続可能な畜産振興戦略、畜産物バリューチェーン強化

(Agri-Net 等) を有効活用し、帰国研修員のフォローアップを通じた成果の拡大と、技術協力や資金協力等他スキームへの橋渡しを推進する。

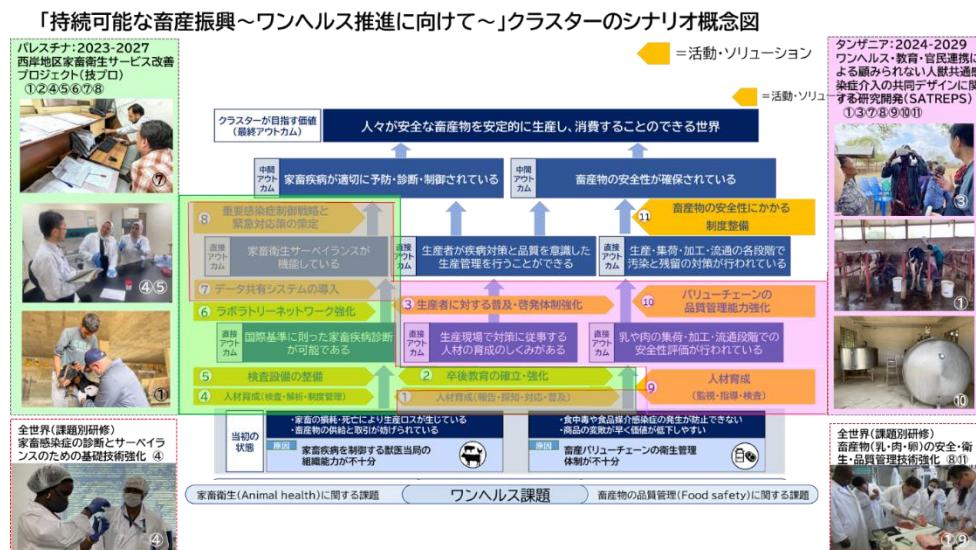
(3) 提案型事業の活用

各地域に配分される技術協力の予算が限られる中、SATREPS や草の根協力事業等の提案型事業を本クラスターに取り込むことで、統一されたモニタリング枠組みでの成果発信と、コミュニティレベルの多様なアプローチ方法に関する情報収集、そして潜在的な国際協力人材の発掘を行う。

8. 実施中・実施予定の事業（2020年以降）

	家畜衛生	食品衛生	家畜衛生／ 食品衛生	合計
技プロ	6	4	2	12
個別派遣	2	4	1	7
国別研修	1	7	3	11
課題別研修	2	3	1	6
草の根技協	6	3		9
SATREPS	2		2	4
無償資金協力			1	1
有償資金協力	2			2
合計	21	21	10	52

9. 実施中の事業の事例



10. 実施中事業マッピング

JICAにおける獣医・畜産分野の技術・資金協力 2024



以上